

使用済み紙容器 再利用

来月から「えこはま」で回収

浜松市西部清掃工場(西区篠原町)の環境啓発施設「えこはま」で四月一日から、使用済み紙容器を回収するリサイクル事業が始まる。紙容器は日本製紙(東京)が回収し、段ボールの原料として活用する。

日本製紙と同工場を運営する浜松グリーンウェアが一年間、実証実験として実施する。市内の家庭から出たアイスクリームやヨー

グルトの紙製カップ、紙コップが対象。洗って乾かした紙容器をえこはま内に設置するボックスで回収し、日本製紙関東工場(埼玉県草加市)で段ボールの原料に再生する。

日本製紙によると、食品容器として使用された紙の多くは、汚れや臭いの問題で一般ごみとして焼却処分されている。実証実験では、市民のリサイクル意識の向上と、使用済み紙容器の新たな資源として再活用することを目指す。

日本製紙化ソリュション推進室の担当者は「プラスチックを減らそうという社会の中で、紙の需要が増えている。牛乳パックはリサイクルの機運が高まっているが、紙容器にも広げていきたい」と話した。

えこはまの営業時間は午前九時～午後四時。月曜休館。(坂本圭佑)



紙容器を集める日本製紙の回収ボックス。日本製紙提供